

7月豪雨災害から防災対策を考えるアンケート（9月実施）結果集計

1. 反省点（被災から）

○側溝掃除

- 家のまわりの側溝掃除をこれまでちゃんとやってなく今回水があふれて大変なことになった。定期的に側溝掃除したい。
- 水路や水回りの草刈り・ゴミ・土など日頃からこまめに取り除いて水が流れやすくしておく。
- 家の裏に土嚢を積むか玉石を積みばと思っている。
- 家裏の法面から大量の水が流れてきたので、家の裏に側溝を掘るなどして水が左右に流れるような対策をしたい。
- 家のまわりの危険個所を確認しておく。

○避難の判断

- 家裏の用水路や谷が心配。早目の判断と避難が大切。
- 想像もしていなかった状況になるので早目に避難すべきです。
- いざという時に持って出るものをよく考えておかねばならない。ただ、想像を超えたことが起こるとどうしていいかわからなくなるものだなと感じた。
- 命を守るためどのタイミングで避難するか自分で判断するのは難しいと感じた。
- 避難を決断してから家を出るまでに45分程かかってしまったので、10分で避難開始できるように準備しておきたい。

○避難への備え

- 非常持出し品の見直し（コロナ対策も含めて）。自分のことは個人で準備しておく。
- 発電機はあったがガソリンがなく、人に借りて家族のことがどうにかできたので、20ℓのタンクを常備する。
- 停電の時のために夏用と冬用の対応をしておく。何度か停電を経験して以前よりあわてなくなったが、ガス・水が使えなくなったら大変。
- 避難袋・家族連絡・身近に置くもの・停電への対応など
- 防災グッズを取り揃える。あふれた水の防御に土嚢袋を準備する。停電に備えて発電機を購入する。
- 家族の緊急避難場所を決めておく。
- 隣家と助け合おうと話しているので心強い。子どもの家へ避難することも考えている。
- 停電になると情報が入らず、今の状況がわからなくなる。ラジオも入りにくい。防災ラジオを考えている。

○保険加入

- 大事な機械が被害を受けたので保険が必要だと思った。
- 建物共済に加入しておくべきだった。

2. 行政に望むこと

○感謝

- ・個人ではできないことに援助の手をさしのべていただけてうれしい。
- ・食事や水など準備してありありがたかった。精一杯の対応をしていただきありがたい。

○災害復旧

- ・早い調査と復旧工事を。棚田の早期復旧を。牧野道路の早期復旧を。川の護岸が何か所も崩れたままなので早期復旧を。
- ・災害により生活権を侵害された人には、農道や農地に提供するサービス以上に公的援助をしてほしい。
- ・排水溝の小さい所が多い。無い所もあるので整備をしてほしい。
- ・立木が倒れて停電を引き起こしそうなところがあるので事前に伐採を。
- ・約30年前までに農地の開発された所、作業道を開設された所は、再点検と危険個所の早期工事をお願いします。
- ・川は本流も大切だが支流の点検も必要
- ・自己負担なしで復旧してほしい

○情報収集・伝達

- ・災害時の情報提供を。早目の避難所開設と住民への周知を。
- ・災害が起こったときどこに電話するのがよいか。消防？町内会？班長？人によってバラバラだった。どこが情報を一括して集めているのか。高山市HPに窓口を1つ作り、問い合わせできる所を設けてほしい。
- ・防災無線が聞こえないので、どこの地区でも聞こえるようにしてほしい。
- ・岩滝と塩屋間の通行止めも考えられるので、そうなった場合早急に迂回路を示してほしい。

○今後の防災対策

- ・川底を低くしてほしい。河川の整備を。砂防堰堤を造ってほしい。土嚢を十分配布してほしい。市道側溝整備をしてほしい。携帯電話基地局の電源を確保してほしい。各公民館に土嚢等の災害応急用品の備蓄を。岩滝公民館を安全な場所へ移設を。
- ・市中心部以外で災害が起きたときの対応策を考え直していただきたい。
- ・子どもたちの登下校中に災害が発生する事を想定した訓練の義務化（その地域で想定される災害などについて学び、実際の通学路に出て訓練するような）。
- ・治山治水に目を向けてもらいたいが、開発事業は根本的に見直す時期がきたことを災害が教えてくれているように思う。
- ・災害復旧はもとの姿に戻すだけでなく、より災害になりにくい作業・仕組みが重要。とくに川の曲がりや幅の狭い所は広く。
- ・停電したとき、発電機のコンセントをそれぞれの家へつなげるようにしてほしい。中電と電気工事会社へ交渉してほしい。

○避難所

- 避難場所までの道が危険。再検討を要す。
- 避難場所まで行くのが遠くて困った。近くに避難する場所がないのが心配。避難所までの道路の安全確保を。学校下から数河への道路は狭くて危険。
- 避難時（岩滝小）への迂回路が狭く、崩れる恐れもあったため怖かった。迂回路の整備が必要。
- 避難所（岩滝小）まで行く途中でも土砂崩れが起きないか不安。各町内に安全な場所（建物）があればよい。
- 避難するとよけいに危険な時間があった。
- 滝・生井は岩滝小までの移動の道が危険。直前に通行止めになっていたのでよかったが、移動時間中に岩滝公民館横が土砂崩れになった。
- 校長先生をはじめ諸先生に世話していただきありがとうございました。
- 避難所に炊き出しグッズとか、停電時の対策はできているのでしょうか。避難所にダンボールのついたてやテントも必要。
- ござと毛布だけでは心もとなかった。下に敷くウレタンマットがあるとよい。座っているとお尻が痛い。座布団があればお年寄りも楽。
- 席が隣同士で密の状態で感染が心配だった。換気も十分でなかった。
- 食事はレトルトで冷たくてかたくてあまりおいしくなかった。半日の避難だったのでなんとか食べれた。
- 女子トイレが1つだけなので心配だった。トイレの手洗いの水が出なかった。水が自動のため使えなかった。
- 停電のため体育館内が暗かった。照明器具や冬期の暖房器具を増やす。
- TVやラジオが聞きたかった。テレビがあれば情報が見え、長時間過ごすにも良い。携帯電話の充電器があるとよい。
- 今回は避難所に少しいただけだが、何日も泊まらなくなった場合はどうなるのでしょうか。その対応は。空き教室も利用できたらと思います。
- 赤ちゃんの孫がいたので保健室を使わせてもらい有難かった。
- 岩滝小学校への避難は適正なのか。今回の7月豪雨で滝・生井両町内より小学校へ一部の方々が指示により避難されたようですが、岩滝小学校が避難所として適正なのか疑問に思います。→（「今後への提案」へ続く）

3. まち協に望むこと

○感謝

- ・精一杯の対応をしていただきありがたい。互いに励まし合っていこう。声をかけて心配していただいていたうれしかった。今後も近所の声かけがとても大事だと思う。

○避難訓練

- ・避難訓練を実施してほしい。防災への取り組みをしてほしい。
- ・被害が3町内に広がると、まち協組織で動くということは難しい。実際に動けなかった。

○情報伝達・広報

- ・今回のように地区の防災広報の周知をしてほしい。
- ・連絡システムを充実してほしい。
- ・「広報いわたき」で各町内のことがよくわかる。行事・災害を含め今後も発行してほしい。

○備品整備・防災対策

- ・近年5日程度の停電、3日程度の停電と停電で相次ぐので、発電機が今以上に必要。
- ・電池が錆びて使用不能になっていた。1～2年ごとに交換するなど点検を。
- ・防災用品を充実してほしい。防災用品を各家庭に年1回1個ずつ配布してほしい。

○その他

- ・いざという時に協力し合えるために、顔と名前が互いにわかるような日頃の交流（行事）があるとよい。世代ごとにはあるが全世代交流となると運動会くらいなので。
- ・役員の危機管理に対する勉強会をすべき。
- ・現実をしっかりと見てもらいたい。被害を写真に撮り残すべき。
- ・今年はコロナで行事があまりおこなわれていないので資金が残っている。山林で災害があり、林道は市で復旧していただけるが、作業道はだめなので作業道の復旧へ支援を。

4. 町内会に望むこと

○感謝

- ・町内会長や消防団が一生懸命やってくくださった。
- ・消防団の活動が力になっていた。消防団の避難の誘導が良かった。役員・消防団員の皆様のおかげと感謝しています。
- ・精一杯の対応をしていただきありがたい。助け合っていこう。みんな顔見知りの町内で心強い。今後も部落民の助け合いを。
- ・災害に遭われた方にお見舞い申しあげます。他人ごとではないと痛感。日頃の心配りが大切。災害があっても岩滝は一つになるべきだ。

○情報伝達、的確な避難

- ・災害当日早朝に被害に遭われた方と警察が自宅に来て避難を促してくれたおかげで無事だった。近所で声を掛け合って助け合うことが大切だと感じた。
- ・非常時に助けの必要な方の情報を共有し、高齢者や手助けが必要な人への対応を。
- ・町内の要介護者・支援の必要な方の把握を。独居老人が増えるのでケアできる対策を。
- ・早い情報伝達（避難所開設など）をしてほしい。連絡網を徹底して連絡系統を充実してほしい。
- ・町内会長からの連絡があって避難を決めました。町内の前ふれが良かった。親切に教えて下さいました。
- ・電話（固定）がつかない時に、町内会長から班へ避難場所変更（公民館→岩滝小）の連絡があり、伝えて歩くのが大変でした。なかなかどこにみえるのかわからなかった。
- ・避難所がどこかわからなかった。後日皆が避難したことを知った。
- ・避難所へ行くのにどこを通ればいいのか分からず危険な道を通ってしまった。それらの情報が早く正確に分かるとよかった。
- ・避難所に行ったきっかけが①実際に家が被災したから②近くの道や崖が崩れたから③町内のよびかけがあったから④自主的に、といろんな人の話を聞いた。
- ・7月8日朝、消防の方が避難してくれと回ってこられましたが、どこがどのくらいなのかわからなくて、避難するにもどうしていいかわかりませんでした。
- ・地元の交通状況や停電の状況など情報収集に困った。停電によりTVが見えない。携帯電話が使えないなどが原因。情報を一括して集めてほしい。地区に掲示板があるので情報伝達に利用してほしい。

○防災体制の整備

- ・町内会・まち協が合同で組織を立ち上げる。町内役員とまち協役員等で会合を開き、今後の防災対策案を作成する。
- ・家庭・町内会・まち協・行政が連携できるようなコミュニケーションをしてほしい。
- ・避難時の対応を決め徹底しておく。自主防災組織を確認しておく。とくに高齢者宅への対応。

- 各町内に一人防災士を育成する（年1回講習会あり）。
- 各町内の防災訓練だけでなく3町内一緒に避難訓練が必要。準備や設営も役員に任せればかりでなく世帯が少ないのだから全員で困っている人のために行動できるように。
- 停電のとき岩井公民館の利用ができて良かった。
- 今回もやっていただいたが、岩井公民館で発電機によるご飯の炊飯や携帯電話の充電などやってほしい。たくさんの方がみえました。
- 急激な大雨警報等の場合、町内役員・関係者が自宅近辺だけでなく町内全体の洪水状況を見て回る対応をしてほしい。その時の現状把握は大雨の中でないと判りません。写真撮影も可能。翌日に被害状況を確認することも必要。

○その他

- ペットの避難先に困った。ペットを飼っているのによほど危険でない限り危険できない。
- 協働作業が若い力不足になったので、町内会費から日当を出すようにして、草刈り・雪下ろし等を年間行事に組み込み、飲食などの費用を回したらどうでしょうか。
- 年を取ってからの町内付き合いは大変。みぞさらえ・川の草刈り。一人暮らしなので参加するにも大変。

5. 今後の防災対策への提案

- ・自分たちの安全を第一に、日頃からどこが危険か調べておく必要を感じます。
- ・避難や避難所運営はスタッフが大変なので、日頃少しずつ訓練するとよい。
- ・仕組み上仕方がないとはいえ、危険なところへわざわざ校長先生・教頭先生・市の方々に来て頂かないと避難所の運営が難しい点を、地元の人達だけでもできるようにできるとよい。
- ・数年前、岩滝小の体育館で防災について研究してみえる岐大だったかの先生の講演会があり、真剣に避難と防災について語ってくださったのが印象深く心に残っています。その講演で祖父が孫の安全について奮起して家具の固定をしてくれました。またその先生に講演をお願いしたいです（今度は土砂災害について）
- ・岩滝小学校への避難は適正なのか。今回の7月豪雨で滝・生井両町内より小学校へ一部の方々が指示により避難されたようですが、岩滝小学校が避難所として適正なのか疑問に思います。

立地条件や建物自体は何の問題もなく、グラウンドも広く最も安全な場所ですが、危険なのは警報の大雨の中避難所までの移動の最中です。岩滝地区は農村部であるため、川の氾濫により床上浸水になったり流される等の被害はあまり考えられないが、急峻な地形に生活道路が走っているため山や谷の土砂崩れが一番多く予想される被害である。岩滝公民館横の大災害は今回たまたま運よく、避難される方が土石流に巻き込まれる人災がなく本当に良かった。しかし、あの時あの場所を通行中に誰かが車ごと流出されても不思議でなく可能性もあったのではないか。

避難中の滝・生井は最も危険である。昭和33年の岩滝被害のときもそうであったが、大雨警報のときは危険な外へ出ることなく、家の中が一番安全場所と思う。万が一の時は2階か隣家へ避難を求めるのも一手。当時は避難指示とか避難場所もなく誰もが自宅でじっと我慢強く静まるときを待っていたものである。

現在は地区中心部に岩滝トンネルが建設されている。施設的な物品や設備は皆無であるが、何より大切な人命を守る安全性を考えれば、滝・生井の方は岩滝小へ行くより近く、避難所として利用するに最適かと思われる。緊急のための通行止めが必要だが、関係者・機関で是非ご一考を。